

## ヨット競技におけるレース分析～日本大学と早稲田大学のレース比較～

### Yacht race analysis between Nihon and Waseda University

1K05B220

村山 航

指導教員 主査 太田章先生

副査 葛西順一先生

#### 【序論】

私は小学校3年生から父親の影響もありヨット競技を続けてきた。中学校までは父親達に練習を見てもらい、高校では厳しいコーチのもと日本一になるために毎日練習に取り組んできた。そして遂に大学4年生時に個人・団体ともに日本一になることができた。ヨット競技のレースは、あらかじめ海上に三角形にマークが設置され、スタートラインから一斉にスタートして指定のマーク回航し、最終順位がそのレースの着順となるようなスポーツである。1レースあたり1時間程で、1日に数レース行う。たいていの場合、大会は3～5日かけて行い、1日中海上に出ていることが多いため、精神力、忍耐力、筋力などが要求される。ヨット競技では、風の変化や天候の変化、相手の変化などの様々な変化に対応しなければ勝てない。本研究では、2006年と2007年の秋季関東インカレ優勝チームのレース分析を比較し検討した。

#### 【方法】

2006年まで関東の絶対王者として君臨してきた日本大学と2007年から王者になった早稲田大学のレース結果を比較して、勝つチームと負けるチームの違いを出す。2006年の日本大学と早稲田大学、2007年の早稲田大学と日本大学を各年別でのレース比較をする。私が「470級」での活動をしていたため、両チーム「470級」のみでの比較を行う。2006年の秋季関東インカレと2007年の秋季関東インカレの日本大学と早稲田大学の1レースごとのマーク回航順位とレース結果から分析を行った。

#### 【結果】

2006年の分析で最終的についた日本大学と早稲田大学の点差は30点である。しかし1マーク回航時での点差は12点である。1マークからフィニッシュまでに両校の点差がさらに開いている。1マークで回航した順位から順位を上げるのは限界もあるがその部分で大きく違いが見られた。2007年の分析で最終的についた早稲田大学と日本大学の点差は83点である。しかし、1マーク回航時での点差は55点である。1マークを回航してからフィニッシュするまでに両校の点差がさらに開いている。1マークで回航する順位から追い上げるのは限界もあるがその部分で大きく違いが見られた。

#### 【考察】

2006年秋季関東インカレに勝った日本大学、2007年秋季関東インカレに勝った早稲田大学を比較して、両大学に共通して言えることは、優勝する大学は1マークからの順位を上げることが優れている。この結果が本研究では非常に大きく見られた。1マークでの着順でも優勝校は勝っているが、その点差が開き優勝を確実なものにしたのは、フィニッシュまでに順位を上げたことである。そして順位を上げるにしても1マークが悪くては限界があるので、1マークの順位が重要になってくる。1マークからフィニッシュまでに順位を上げるためには、不確定要素が少ないこととして、スピードが重要だと考えられる。1マークの順位を良くするためには、スタートが大きな要素を占めていると考えられる。"